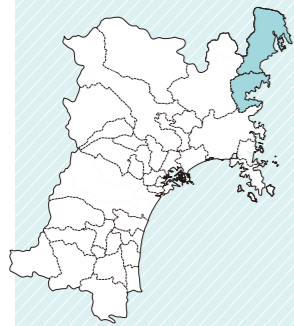


復興の 主な取組例

宮城県震災復興計画では、「復旧」とどまらない抜本的な「再構築」を基本理念のひとつに掲げています。被災地では、まちを元通りに戻すのではなく、様々なアイデアを用いて将来を見据えた先進的なまちづくりが行われてきました。震災から10年の時を経て、活気にあふれ、生まれ変わったまちの復興の様子を紹介します。

気仙沼・本吉エリア



気仙沼市

気仙沼大島大橋



気仙沼市



のどか
大島の観光施設「野杜海」

1.



南三陸町

南三陸さんさん商店街

2.



南三陸町

南三陸ワイナリー

2. さんさん商店街

南三陸町では、仮設で営業してきた商店街が、海拔約10mにかさ上げされた土地に再建され、平成29年3月に「南三陸さんさん商店街」としてオープンしました。令和2年には、町内にワイナリーがオープンし、地元食材とのマリアーージュが楽しめます。

1. 気仙沼大島大橋／野杜海

東北最大の有人離島・気仙沼大島と本土を結ぶ希望の橋として、平成31年4月に完成した気仙沼大島大橋。鶴亀大橋の愛称で親しまれるこのアーチ橋は、気仙沼市の新たなシンボルの一つとなりました。令和元年7月には、島内に観光施設「野杜海」がオープンしました。



石巻エリア



牡蠣



石巻市
南三陸町
女川町

3.



石巻市

水産業復興特区の導入

県は、震災により甚大な被害を受けた県内の水産業を早期に復興させるための選択肢の一つとして、漁業法により漁業協同組合に優先的に免許される漁業権を、地元漁業者を主体とする法人に付与できる「水産業復興特区」を国へ提案しました。これを受け、平成23年12月に「東日本大震災復興特別区域法(復興特区法)」が制定され、平成25年4月に石巻市桃浦地区が日本初の水産業復興特区に認定されました。



いしのまき元気いちば



石巻市

4.



かわまち交流センター



女川町

5.

シーパルピア女川(提供:女川町)

3. ASC国際認証取得

平成28年には、南三陸町戸倉地区の牡蠣養殖場が国内初となる「ASC国際認証※」を取得しました。その後、石巻市の牡蠣や女川町の銀鮭も同認証を取得しており、未来の子どもたちに残せる養殖業を目指した持続可能な漁場作りが進められています。
※環境に負担をかけず地域社会に配慮して操業している養殖業に対する国際的な認証制度。

5. シーパルピア女川

女川町では、女川駅から海へと続くレンガの遊歩道に沿って、女川グルメや豊富な土産、体験満喫のおもてなし拠点「シーパルピア女川」が平成27年12月に開業しました。平成30年度には、「女川駅前レンガみち周辺地区」が「都市景観大賞」の都市空間部門で大賞(国土交通大臣賞)を受賞しました。



東松島市

KIBOTCHA(提供:貴凜庁株式会社)

6.

4. いしのまき元気いちば／かわまち交流センター

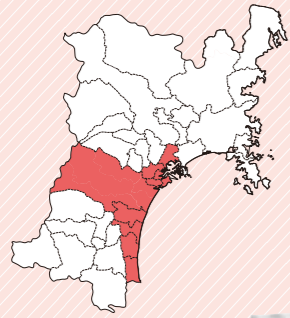
石巻の中心市街地に、平成29年6月にオープンした「いしのまき元気いちば」。石巻で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類をはじめ、豊富な地元産の食材が揃うマーケットです。

6. KIBOTCHA

東松島市では、津波で被災した旧野蒜小学校の校舎が、防災を学ぶ室内テーマパーク「KIBOTCHA(キボッチャ)」として生まれ変わりました。子ども達が様々な体験を通して防災の防災や生き抜く知恵を学んでいます。

復興の主な取組例

仙台沿岸エリア



7. 仙台市 東部復興道路



8. 宮城全域



9. 宮城全域 DATE SEVENの7蔵元 (提供: DATE SEVEN)



10. 仙台市

東北医科薬科大学 福室キャンパス

11. 多賀城市



宮城県多賀城高等学校 (提供: 宮城県多賀城高等学校)

12. 名取市



かわまちてらす開上 (提供: 名取市)

14. 亶理町



いちご団地



14. 新品種「にこにこベリー」

15. 山元町



15. やまもと夢いちごの郷 (提供: 山元町)

13. 名取市 岩沼市



13. 仙台空港



宮城全域

水素エネルギー 利活用の推進

宮城県では、震災の経験を踏まえ、水素エネルギーの利活用拡大に向けた取組を着実に進めていくことで、環境負荷の低減や災害対応能力の強化に加え、産業振興においても効果が期待できることから、平成27年6月に「みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン」を策定しました。二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化の抑制や環境負荷の低減を推進するとともに、燃料電池自動車 (FCV) を災害時の非常用電源として活用できる体制の整備を進めることで、災害対応能力の強化を図っています。



公用車として導入したFCV

7. 「東部復興道路」全線開通

仙台市では、被災した沿岸部に整備したかさ上げ道路「東部復興道路」が、令和元年11月に全線開通しました。海岸防潮堤や仙台東部道路などの多重防御で津波の威力を軽減します。

8. 新品種「だて正夢」デビュー

平成30年秋に本格デビューしたプレミアムブランド米「だて正夢」。仙台藩祖・伊達政宗公のようなカリスマ性で、「食卓の天下を取る」という願いを込めて名づけられました。もちもちした食感と強い甘みが特長です。

10. 37年ぶりの新医学部 開設

宮城県では、東北の医師不足・偏在の解消や幅広い総合診療能力を持つ医師の育成のため、医学部の新設を目指して国への働きかけなどを行ってきました。その結果、平成28年4月に、国内で37年ぶりの新医学部となる「東北医科薬科大学医学部」を開設することができました。

9. DATE SEVEN (伊達セブン)

異なる個性を持つ県内の7蔵が、それぞれの得意分野を互いに吸収し、技術を高め合うために結成した蔵の集団です。年に一度、7蔵で協力して作る特別な日本酒は、全国で心待ちにしているファンも多く、毎年完売するほどの人気です。

11. 多賀城高校「災害科学科」新設

平成28年4月、宮城県多賀城高等学校に、全国で2例目となる防災系専門学科「災害科学科」が新設されました。大震災の教訓を次世代に伝承するとともに、将来国内外で発生する災害から多くの命と暮らしを守るスペシャリストを育成しています。

12. かわまちてらす開上

生まれ変わった開上のまちを照らし、川辺の憩いのテラスとなるよう願いが込められた、開上の新しい商業施設。平成31年4月にグランドオープンし、飲食店や海産物、スイーツのお店など25店舗が軒を連ねます。

14. いちご団地／にこにこベリー

東北有数のいちごの産地である亶理町は、津波によりいちご農地のほとんどが流され、塩害の被害がありました。国の復興交付金等により、総栽培面積約40㌖の「いちご団地」と呼ばれる栽培用の大型ハウスが平成25年9月に完成しました。令和元年には新品種「にこにこベリー」がデビューしました。

13. 仙台空港民営化

仙台空港は平成28年7月に国管理空港として全国で初めて民営化されました。運営するのは仙台国際空港株式会社で、ターミナルビル、貨物、滑走路管理等の業務を一体経営しています。

15. やまもと夢いちごの郷

平成31年2月にオープンした、「やまもと夢いちごの郷」は、山元町の特産品であるいちごやりんご、新鮮な魚介類、加工品等を販売する、町の魅力が詰まった直売所です。令和3年1月にはフードコートもオープンし、郷土料理や地場産品を使った料理などバラエティに富んだ食事が楽しめる山元町の新たなランドマークです。